

一般社団法人日本太陽エネルギー学会 第15回定時社員総会報告

一般社団法人日本太陽エネルギー学会第15回定時社員総会は5月28日（水）13：30から東京理科大学森戸記念館第2フォーラムにてオンライン会議を併用して開催された。

式次第は次の通り。

1. 開会の辞 2. 議事 第1～3号議案
3. 2024年（令和6年）度学会各賞受賞者の発表
4. 表彰式 5. 閉会の辞 6. 特別講演会

定款第15条により若尾真治会長が議長として開会を宣言した。続いて総会開催資格について加藤和彦副会長より個人会員ならびに団体会員の正会員549個中、出席者41個、オンライン参加者37個、総会議長への委任186個、合計264個であり定款17条に定める正会員の1/3（183個）を超え、総会は成立した旨の報告がされた。

続いて書記、議事録署名人の選出に移った。議長より、書記に太田勇副会長、議事録署名人に加藤和彦副会長にそれぞれお願いしたい旨の提案があり、異議無く選任された。続いて第1号議案から第3号議案の審議に入った。第1号議案「2024年度事業報告並びに決算報告に関する件」について加藤副会長より説明を受けた後、会計監査報告として、監事を代表して原人志監事より「会計は適正に処理されている」旨の報告があった。議長が議案の賛否を問い、異議無く承認された。

第2号議案「2025年度事業計画並びに予算に関する件」について加藤副会長より説明の後、議長が議案の賛否を問い、一部誤記訂正の上承認された。

第3号議案「学会誌郵送希望者の会費改定の件」について若尾会長より説明を受けた後、議長が議案の賛否を問い異議無く承認された。

続いて、太田表彰委員会委員長より2024年度の学会各賞の受賞者が報告され、その後、表彰式が執り行われた。功労賞として、副会長を1期、理事を4期務められた酒井孝司氏（明治大学）に記念の盾が贈呈された。また、学会賞（技術部門）には、大成建設／カネカによる「外装一体型太陽電池モジュール『Green Multi Solar®』の開発と建物実装」が選ばれ、授賞式には大成建設の梅田和彦氏および宮嶋禎朗氏が出席し、表彰状と記念のメダルが贈呈された。2024年度は残念ながら論文賞の該当者はいなかったが、奨励賞（一般部門）には小沼大河氏（東京ガス）、水野敬太氏（ミサワホーム総研）、谷辰夫奨励賞（学生部門）には秋山航氏（早稲田大学大学院）、奨励賞（学生部門）には里見麻佑子氏（東京理科大学）、鈴木雅之氏（早稲田大学）、關真弥氏（東京理科大学）、中田湧也氏（東京理科大学）が出席され、それぞれ表彰状と記念のメダルが贈呈された。

特別講演として、経産省新エネルギー課の妙中駿之氏から「第7次エネルギー基本計画と再生可能エネルギーの最大限導入に向けて」、近畿大学の堀端章氏から「作物の生産生理の視点から見る営農型太陽光発電の現状と可能性」、佐賀大学／九州大学の吉田茂雄氏から「第7次エネルギー基本計画を踏まえた風力エネルギー利用の展望」と題して3件の講演をいただいた。



功労賞受賞
酒井孝司氏（明治大学）



学会賞（技術部門）受賞
梅田和彦氏・宮嶋禎朗氏
（大成建設）



授賞式に参加された奨励賞受賞者
後列左より關真弥氏（東京理科大学）鈴木雅之氏（早稲田大学）秋山航氏（早稲田大学）小沼大河氏（東京ガス）前列左より中田湧也氏（東京理科大学）若尾会長 里見麻佑子氏（東京理科大学）水野敬太氏（ミサワホーム総研）

(第1号議案) 2024年度事業報告並びに決算報告

一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2024年度(令和6年度)事業報告

自: 2024年4月1日

至: 2025年3月31日

1. 第14回定時社員総会

期日: 2024年5月29日(水)

会場: 東京理科大学森戸記念館第1フォーラムにて
オンライン会議を併用して開催した。

議事: すべての議案について異議無く承認された。

(1) 2023年度(令和4年度)事業報告並びに決算
報告、剰余金処分の件、会計監査報告の承認に関
する件

(2) 2024年度(令和5年度)事業計画並びに予算
案の承認に関する件

(3) 団体会員・学生会員会費改定の件

(4) 法人8期役員選出の件

(5) 表彰 担当: 表彰委員会(委員長: 若尾真治)
次の方々に各学会賞を贈り表彰した。(敬称略)

1) 2023年度 功労賞

光田憲朗(三菱電機株式会社)

2) 2023年度 最優秀論文賞・太和田賞

標題「太陽電池モジュール/ストリングと大地
の間の等価回路の提案」

掲載号 Vol.49 No.2 (274号)

加藤和彦(産業技術総合研究所)

3) 2023年度 論文賞

標題「太陽電池における熱暴走現象のシャント
スポット径収縮停止メカニズム」

掲載号 Vol.49 No.1 (273号)

河村龍太, 南野郁夫(宇部工業高等専門学校)

村井和弥(元宇部工業高等専門学校)

4) 2023年度 論文賞

標題「30年以上使用の体育館における太陽熱
利用システムの運用と性能およびエクセルギー
評価」

掲載号 Vol.49 No.2 (274号)

宋 城基(広島工業大学), 伊澤康一(福山大学)

5) 2023年度 奨励賞(一般部門) 1編

標題「大容量蓄電池や昼間運転ヒートポンプ給
湯機を搭載したエネルギー自給住宅の分析」

藤本卓也(大和ハウス工業株式会社)

6) 2023年度 奨励賞(学生部門) 11編

標題「全天空画像からの1および2方向の雲の
流れ方向判定法の提案」

脇坂 颯(豊橋技術科学大学)

標題「Fe/N/C型非白金系酸素還元触媒炭素担
体への窒素原子ドーピングによる酸素還元能への影
響」

和田悠希(東京工業高等専門学校)

標題「太陽集熱によるZnとH₂Oを用いた水
素生成及びZnOの還元サイクルに関する研究」

島田健太(日本大学)

標題「GISを用いたPV向けの人工林の樹齢を
考慮した適地検討」

高橋沙里(福井大学)

標題「PV大量導入時の基幹系統における系統
用蓄電池の混雑緩和効果に関する分析」

加藤大樹(早稲田大学)

標題「フラッシュ光照射時のキャパシタ電圧と
出力電流に基づくストリング接続されたPVモ
ジュールの不具合診断」

柿本伸之介(茨城大学)

標題「多点測定可能なIVカーブ測定機を用い
た有機薄膜太陽電池の特性評価」

濱 健斗(公立諏訪東京理科大学)

標題「光透過型有機薄膜太陽電池を用いたオイ
ル産生藻類培養の検討」

二木達朗(公立諏訪東京理科大学)

標題「太陽光発電・蓄電池・電気自動車を連携
させたZEH住宅の実証 数値シミュレーション
による電気の自給自足可能性についての検討」

佐藤 廉(前橋工科大学)

標題「光透過型真空断熱材の圧力上昇を抑制す
る製造プロセスに関する検討」

宮田天和(北海道大学)

標題「強化学習による一軸追尾両面PVアレイ
の角度制御特性」

Andrea Burciaga Jimenez(長岡技術科学大学)

7) 2023年度 若手研究発表会奨励賞3編

標題「太陽光発電及び電力需要の予測と電力需
給結果の関係性について」

佐藤聖史(東京大学大学院)

標題「太陽光発電・蓄電池・電気自動車を連携させた ZEH 住宅の実証 モデル住宅を対象とした数値シミュレーションによる検討」

佐藤 廉（前橋工科大学大学院）

標題「n-BaSi₂ 膜のデバイス応用に向けた正孔輸送層の探索」 青貫 翔（筑波大学大学院）

2. 理事会

- 第 85 回理事会 2024 年 5 月 29 日
- 第 86 回理事会 2024 年 7 月 12 日
- 第 87 回理事会 2024 年 9 月 9 日
- 第 88 回理事会 2024 年 11 月 1 日
- 第 89 回理事会 2025 年 1 月 9 日
- 第 90 回理事会 2025 年 1 月 30 日（メール審議）
- 第 91 回理事会 2025 年 3 月 10 日
- 第 92 回理事会 2025 年 5 月 13 日

3. 各種委員会活動

3.1 事業委員会（委員長：佐川耕平）

- (1) 「電気自動車・燃料電池車・ソーラーカー製作講習会－エコカー開発を担う人材の増強を目指す－」
2025 年 2 月 22 日東海大学品川キャンパス オンライン併用開催 参加者：282 名

3.2 広報委員会（委員長：桶真一郎）

- (1) 「第 19 回再生可能エネルギー世界展示会」(協賛)
2025 年 1 月 29 日～1 月 31 日 東京ビックサイト
アカデミックコーナーに出展し研究発表会や出版物の紹介・無償配布を行った。
- (2) 一般用・会員専用 HP について適宜更新を行った。HP に団体会員向け専用バナーを掲載した。

3.3 学会誌編集委員会（委員長：吉永美香）

- (1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society (太陽エネルギー)」発刊
Vol.50, No.3 281 号 2023 年 5 月（104 頁）
Vol.50, No.4 282 号 2023 年 7 月（108 頁）
Vol.50, No.5 283 号 2023 年 9 月（102 頁）
Vol.50, No.6 284 号 2023 年 11 月（102 頁）
Vol.51, No.1 285 号 2024 年 1 月（110 頁）
Vol.51, No.2 286 号 2024 年 3 月（102 頁）
以上、通巻 281 号から 286 号を発行した。
- (2) 研究論文・技術報告は 15 編を掲載した。
- (3) 太陽光発電部会の講演要旨、各部会対応の学会誌特集記事を掲載した。
- (4) Vol.51, No.1 285 号から、表紙デザインを更新した。表紙デザインは公募により応募件数 22 作品

の中から選定した。

3.4 研究発表会運営委員会（委員長：加藤和彦）

- (1) 2024 年度日本太陽エネルギー学会研究発表会を以下のとおり開催した。
開催日：2024 年 11 月 2 日（土）～3 日（日）
会場：札幌市立大学（札幌市）
参加登録者数：160 名 一般講演論文：102 件
見学会：2024 年 11 月 1 日（金）参加者 27 名
石狩市厚田支所 / 石狩市工業団地（バイオマス発電所 / 風力発電所 / データセンター）

3.5 学会活性化委員会（委員長：植田 譲）

若手研究者に自由な発表の場を提供することを目的として第 5 回若手研究発表会を以下のとおり開催した。

2024 年 7 月 31 日（水）オンライン開催 参加者 22 名

6 名の発表者の中から若手研究発表会奨励賞を 1 名に授与した。（各賞受賞者は別掲）

3.6 表彰委員会（委員長：太田 勇）

- (1) 2024 年度の奨励賞は一般部門 6 件、学生部門 42 件の申請に対して以下の通り推薦した。
奨励賞（一般部門）に 3 名（内 1 名を谷辰夫奨励賞（一般部門）を推薦し承認された。
に推薦し承認された。
奨励賞（学生部門）に 9 名（内 1 名を谷辰夫奨励賞（学生部門）を推薦し承認された。
- (2) 功労賞は 1 名を推薦し承認された。
- (3) 論文賞については対象論文が 6 件あったが、2024 年度の論文賞については該当なしとした。
- (4) 学会賞（技術部門）に 1 件の応募があり、学会賞にふさわしい内容として推薦し承認された。（各賞受賞者は別掲）

3.7 国際交流委員会（委員長：松原弘直）

- (1) KSES との交流として 2024 年 JSES 研究発表会に KSES 会長・副会長を招待し、会長に招待講演をいただいた。

3.8 学会規程委員会（委員長：岡島敬一）

- (1) 谷辰夫基金として 10,000 千円の寄付をいただき、学会賞、論文賞、奨励賞の中に谷辰夫賞を新設するよう表彰規程を改定した。

3.9 教育委員会（委員長：大竹秀明）

- (1) 学習・教育用ライブラリーとして「入門編 建築 1: ゼロエネルギー建築とは」を 2024 年 6 月に、「入門編 建築 3: ゼロ・エネルギー住宅実現の要点」を 2025 年 2 月に公開した。
- (2) 研究室紹介として「東京農工大学 秋澤研究室」

を2025年2月に公開した。

3.10 設立50周年記念事業準備委員会

(委員長：加藤和彦)

- (1) JSESは2025年5月に設立50周年を迎えるため、50周年を記念した事業の準備委員会を7月に組織した。

3.11 脱炭素社会推進会議 (担当理事：太田 勇)

- (1) 定例会議へ参加した。

4. 部会活動

4.1 太陽熱部会 (部会長：原 人志)

- (1) 第19回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラムにおける太陽熱分野に関する企画運営協力 (2025年1月21日/オンライン)
- (2) 「産業用および大規模太陽熱利用に関する勉強会」を3回開催した。
- (3) ソーラー建築ガイドブックへの編集協力。

4.2 太陽光発電部会 (部会長：宮本裕介)

- (1) 第37回セミナー「太陽光発電と電磁波・電磁界に関するセミナー」2024年8月28日早稲田大学西早稲田キャンパス/オンライン併用開催 参加者：57名
- (2) 第38回セミナー 気象・環境セミナー「気候予測・再解析データ」
2024年11月8日オンライン開催 参加者：43名
- (3) 第39回セミナー「太陽光発電システム上の積雪の課題」
2024年12月6日オンライン開催 参加者：51名
- (4) 学会誌の特集記事として「太陽光発電設備の安全性向上のための設計・施工ガイドライン策定にかかる実証実験」を282号に企画した。
- (5) 学会誌の特集記事として「太陽光発電と電磁波・電磁界に関するセミナー」を284号に企画した。
- (6) 学会誌の特集記事として気象環境セミナー「気候予測・再解析データ」を285号に企画した。
- (7) 学会誌の特集記事として「太陽光発電システム上の積雪の課題」を286号に企画した。

4.3 光化学・バイオマス部会 (部会長：渡邊康之)

- (1) 学会誌の特集記事として「再生可能エネルギーを促進する蓄電システム」を284号に企画した。

4.4 ソーラー建築部会 (部会長：太田 勇)

- (1) ソーラー建築に特化したガイドブック作成と講座立ち上げを企画し、出版に向けた準備を継続している。
- (2) 学会誌の特集記事として「環境評価とホールライフカーボン評価の拡がり」を281号に企画した。

4.5 風力・水力部会 (部会長：吉田茂雄)

- (1) 風力・水力部会 道北見学会 (北海道北部風力送電施設, ユーラスエネルギー・浜崎ウィンドファーム, 日本原子力研究開発機構・幌内深地層研究センター)
CIREn 洋上風力分科会との共催 2024年12月19日 参加者10名

4.6 100%再生可能エネルギー部会

(部会長：秋澤 淳)

- (1) 日本機械学会「新☆エネルギーコンテスト」への協力
- (2) 研究発表会におけるオーガナイズドセッション
2024年11月3日 札幌市立大学 参加者約60名
地域脱炭素部会と共催
- (3) 見学会 富山県黒部市 YKK グループ「パッシブタウン」および「I-TOWN」 2024年11月8日
参加者7名

4.7 地域脱炭素部会 (部会長：伊高健治)

- (1) 地域脱炭素部会 設立記念講演会
2024年8月27日 東京理科大学森戸記念館
参加者34名
- (2) 大潟村におけるもみ殻を燃料とした面的再エネルギー供給システム見学会
2024年10月1日～2日 参加者13名
- (3) 研究発表会におけるオーガナイズドセッション
2024年11月3日 札幌市立大学 参加者約60名
100%再生可能エネルギー部会と共催

5. 関西支部の活動 (支部長：伊藤省吾)

- (1) 幹事会
第1回幹事会：2024年4月19日
第2回幹事会：2024年7月26日
第3回幹事会：2025年1月16日
- (2) 見学会 大阪ガス株式会社 大阪ガス実験集合住宅『NEXT21』 2024年9月27日 参加者21名
- (3) 研究室探訪 近畿大学 和歌山キャンパス
2024年10月23日 参加者12名
- (4) 2024年度関西支部シンポジウム
「大阪万博でアピールする環境・エネルギー技術」
2024年12月4日 大阪公立大学 文化交流センター 参加者：31名
- (5) 学会誌の特集記事として「カーボンニュートラルに向けた社会動向と技術開発」を281号に企画した。

6. 会員推移

今年度の会員数推移は下記の通りとなった。

- ・ 当期（2024 年度）新入会員
個人会員 27 名， 学生会員 46 名， シニア会員 3 名

・ 2025 年 4 月 1 日の会員数（2024 年 4 月 1 日比）

終身会員	17 名（± 0）
個人会員	419 名（△ 28）
学生会員	66 名（+ 23）
シニア会員	44 名（+ 14）
合計	537 名（+ 9）

学校会員	1 校
団体会員	29 団体（△ 3）

2024 年度（令和 6 年度）一般会計収支報告

自：2024 年 4 月 1 日 至：2025 年 3 月 31 日

一般会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算	実績
前年度繰越金	1,979,724	1,979,724
会費	10,842,400	10,663,732
学会誌・書籍	1,946,014	1,918,521
雑収入	360,000	10,296,231
研究発表会	2,696,000	2,628,600
各種事業・部会等	1,725,000	1,450,335
当期収入	17,569,414	26,957,419
合計	19,549,138	28,937,143

支出の部 (単位：円)

科 目	予算	実績
会議費	750,000	908,248
学会誌他印刷費	4,104,244	4,437,306
賛助会費	123,500	123,500
研究発表会	996,000	1,466,606
各種事業・講演会	3,470,000	715,989
維持経費	3,190,460	2,994,278
人件費	6,721,000	6,914,399
法人税	70,000	70,000
税理事務所報酬	528,000	528,000
当年度支出計	19,953,204	18,158,326

特別会計（出版事業）

収入の部 (単位：円)

科 目	予算	実績
前年度繰越金	0	0
書籍売上	51,000	69,300
合計	51,000	69,300

支出の部 (単位：円)

科 目	予算	実績
販売経費	10,000	0
期首棚卸し資産	51,000	52,276
期末棚卸し資産	2,527,500	0
合計	△ 2,466,500	
次年度繰越金		0

貸借対照表（2025 年 3 月 31 日） (単位：円)

資産の部		負債・純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 資産の部		II 負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金	422,401	未払い金	65,828
普通預金	20,878,020	前受け金	2,479,589
定期預金	12,222,947	預かり金	42,278
2. 出版物棚卸し資産	0	負債の部合計	2,587,695
3. 立替金	0	III 純資産の部	
4. 前払い費用	0	1. 別途積立金	20,555,232
5. 未収入金	415,400	2. 繰越利益剰余金	
流動資産合計	33,938,768	前期繰越利益	1,979,724
		表彰資金取崩額	200,000
		当期利益	8,616,117
		(次年度繰越金	10,795,841)
		純資産の部合計	31,351,073
合計	33,938,768	合計	33,938,768

損益計算書

自：2024 年 4 月 1 日 至：2025 年 3 月 31 日

収入の部

(単位：円)

項 目	非収益事業	収益事業	合 計	備 考
1. 会費収入	10,663,732		10,663,732	
2. 事業収入	14,210,511	2,152,476	16,362,987	
学会誌		1,918,521	1,918,521	定期購読・論文掲載・広告
書籍		69,300	69,300	ハンドブック
各種部会講演会・見学会	648,059		648,059	含関西支部
ソーラーカー講習会	719,776	82,500	802,276	東海大学(オンライン併用)
研究発表会登録費等	2,109,000		2,109,000	札幌市立大学にて開催
見学会・懇親会等	373,400		373,400	
論文集売上げ・広告		46,200	46,200	
助成金	100,000		100,000	
雑収入・その他	54,000		54,000	
著作権料		35,408	35,408	
特別会計収入(表彰資金)	200,000		200,000	太和田賞基金から取崩し
受取利息	6,276	547	6,823	
寄付金	10,000,000	0	10,000,000	寄付金(谷辰夫基金創設)
合 計	24,874,243	2,152,476	27,026,719	

支出の部

管理費は非収益事業と収益事業収入から按分した

項 目	非収益事業	収益事業	支出合計	備 考
1. 事業支出	2,174,184	8,411	2,182,595	
部会支出	354,607		354,607	含関西支部
ソーラーカー製作講習会	361,382		361,382	東海大学(オンライン併用)開催
研究発表会開催費	570,741		570,741	札幌市立大学開催
研究発表会見学会等	417,365		417,365	
論文集 J-Stage 掲載料	470,089	8,411	478,500	
2. 管理費	14,706,230	1,251,777	15,958,007	
職員給与	5,997,276	523,178	6,520,454	
福利厚生費・法定福利費	146,186	12,754	158,940	業務災害補償保険・労災保険
広告費(ホームページ他)	13,629	1,189	14,818	
会議費(総会・理事会)	393,204		393,204	
通勤交通費	276,356	24,109	300,465	
通信費	255,866	22,321	278,187	電話料・郵送料等
消耗品・雑費	145,399	12,685	158,084	含振込手数料, コピー料
租税公課	58,772	5,128	63,900	消費税
諸会費(会費・協賛金)	113,590	9,910	123,500	ソーラーシステム振興協会他
水道光熱費	96,293	8,401	104,694	
賃借料	1,452,306	126,694	1,579,000	
リース料	627,403	54,732	682,135	
学会誌制作費	4,081,271	356,035	4,437,306	原稿料・封筒代含む
書籍印刷・発送費		52,276	52,276	
支払い報酬(会計事務所)	485,635	42,365	528,000	
学会賞	515,044		515,044	
貸倒損失	48,000		48,000	2023 年度会費回収不能額
合 計	16,880,414	1,260,188	18,140,602	
税引前当期利益	7,993,829	892,288	8,886,117	
法人税・住民税・事業税		70,000	70,000	2024 年度事業税
当期純利益	7,993,829	822,288	8,816,117	寄付金を除き 1,183K 円の赤字

会計監査報告

2024 年度(令和 6 年度)会計監査報告書

一般社団法人日本太陽エネルギー学会

会長 若尾 真治 殿

一般社団法人日本太陽エネルギー学会 2024 年度(令和 6 年度)(2024 年 4 月 1 日より 2025 年 3 月 31 日)の収支決算報告書について一般社団法人日本太陽エネルギー学会定款第 41 条に基づき、決算書、帳簿、伝票、証憑書類を監査した結果、適正に処理、記載されていることを確認した。

2025 年 5 月 7 日

監事 相曾一浩

監事 原 人志

(第 2 号議案) 2025 年度事業計画

一般社団法人日本太陽エネルギー学会
2025 年度(令和 7 年度)事業計画

自: 2025 年 4 月 1 日

至: 2026 年 3 月 31 日

1. 第 15 回定時社員総会

期日: 2025 年 5 月 28 日(水)

会場: 東京理科大学森戸記念館第 2 フォーラム
オンライン併用開催。

議事

- (1) 2024 年度(令和 6 年度)事業報告並びに決算報告、剰余金処分の件、会計監査報告の承認に関する件
- (2) 2025 年度(令和 7 年度)事業計画並びに予算案の承認に関する件
- (3) 学会誌郵送希望者の会費改定の件
- (4) 2024 年度学会各賞選考結果報告
- (5) 特別講演会
- ・ 第 7 次エネルギー基本計画と再生可能エネルギーの最大限導入に向けて

新エネルギー課 妙中駿之

- ・ 作物の生産生理の視点から見る営農型太陽光発電の現状と可能性 近畿大学 堀端 章
- ・ 第 7 次エネルギー基本計画を踏まえた風力エネルギー利用の展望 佐賀大学/九州大学 吉田茂雄

2. 理事会

6 回/年 開催し、遅滞なく業務を執行する。

3. 各種委員会

3.1 事業委員会(委員長: 佐川耕平)

- (1) ソーラーカー製作講習会は東日本地区で開催を企画する。
- (2) 学会誌 287 号へ特集記事「ソーラーカーと車載 PV」を企画する。

3.2 広報委員会(委員長: 桶真一郎)

- (1) 「第 20 回再生可能エネルギー世界展示会 & フォーラム」(2026 年 1 月 28 日～30 日)アカデミックコーナーに本会ブースを設け本会の活動内容を PR する。
- (2) ホームページの会員向けサービスの充実ならびに非会員向けに学会活動の PR を図る。

3.3 学会誌編集委員会(委員長: 吉永美香)

- (1) 学会誌「Journal of Japan Solar Energy Society」を Vol.51 No.3(通巻 287 号)～Vol.52 No.2(通巻 292 号)までの 6 回発行する。各号特集記事の充実を図る。
- (2) 太陽エネルギー利用に関連する教育講座や国際会議報告、研究室紹介等を掲載し、幅広い会員に親しめる学会誌編集を行う。
- (3) JSES50 周年記念事業の一環として 289 号に設立 50 周年記念特集号を企画する。特集記事の一つとして若手研究者を集めた座談会「持続可能な

社会における日本のあり方とJSESへの期待(仮)」を企画する。

3.4 研究発表会運営委員会（委員長：加藤和彦）

- (1) 2025年度JSES研究発表会を以下のとおり予定する。

開催日：2025年11月2日（日）～3日（月）

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー
JSES設立50周年記念特別講演会・祝賀会と同時開催

- (2) 見学会の開催は未定

3.5 学会活性化委員会（委員長：山田 昇）

- (1) 若手研究者とベテラン研究者との有益なディスカッションを期待してJSES・若手研究発表会を7月31日（水）にオンライン開催する。優れた発表には「若手研究発表会奨励賞」を贈呈する。

3.6 表彰委員会（委員長：太田 勇）

- (1) 「論文賞（太和田賞、谷辰夫賞を含む）」、「奨励賞（谷辰夫奨励賞を含む）」「学会賞（学術部門）」「学会賞（技術部門）」「若手研究発表会奨励賞」「功労賞」の受賞者を選考し、研究開発ならびにその実用化促進に関する優れた業績を顕彰する。なお、「奨励賞」については研究発表会において予備審査を行う。

3.7 国際交流委員会（委員長：松原弘直）

- (1) KSESとの相互交流としてお互いの研究発表会で相互に発表の機会を設ける。

3.8 学会規程委員会（委員長：岡島敬一）

各種規程の整備、見直し、改定を推進する。

3.9 教育委員会（委員長：大竹秀明）

- (1) 教育目的の利用を促進するためにPPT資料の公開を継続実施する。
- (2) JSES有識者へのインタビュー形式教育ビデオ（第3弾）の制作を予定する。

3.10 設立50周年記念事業準備委員会

（委員長：加藤和彦）

- (1) 50周年記念事業として特別講演会・祝賀会を実施する。

開催日：2025年11月2日 午後

会場：明治大学駿河台キャンパス リバティタワー

- (2) 絵画コンテスト
小・中学生を対象に、「再生可能エネルギーと未来の暮らし」をテーマとした絵画を募集する。
- (3) 作文コンテスト
高校生から大学生までを対象に、「再生可能エネルギーがひらく未来」をテーマとした作文を募集する。

- (4) 太陽光発電部会主催「JSES-PVResQ! 夏合宿2025」を9月に開催する。

- (5) 事業委員会として学会誌287号に「ソーラーカーと車載PV」特集号を企画し一般販売する。

- (6) 学会誌の連載エッセイ「それぞれのサンシャイン物語」を継続して掲載する。

- (7) 50周年記念事業の一環としてソーラー建築ガイドブックを発刊する。

3.11 脱炭素社会推進会議（担当理事：太田 勇）

- (1) 定例会に出席しJSESとして運営に協力する。

4. 各種部会

会員相互交流の他、新規会員の拡充を図るため、各部会において勉強会、セミナー、講演会等を企画運営する。

4.1 太陽熱部会（部会長：原 人志）

- (1)「RE2026 フォーラム(2026年1月28日～30日)」にて太陽熱分野の企画運営へ協力する。
- (2) 産業用および大規模太陽熱利用に関する勉強会を継続して実施する。

4.2 太陽光発電部会（部会長：宮本裕介）

- (1) セミナーとして以下の5件を予定する。
 - ・「営農型太陽光発電システムの設計・施工ガイドライン関連セミナー（仮）」7月頃
 - ・「PVResQ! 夏合宿」9月3日～5日 於磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」
 - ・「太陽光発電設備・風力発電設備の雷被害とその対策」7月18日 於愛知工業大学本山キャンパス（風力・水力部会と共催）
 - ・「太陽電池のリサイクル関連セミナー（仮）」12月頃
 - ・「ペロブスカイト太陽電池関連セミナー（仮）」2026年1月頃

4.3 光化学・バイオマス部会（部会長：堀端 章）

- (1) シンポジウム・見学会として以下を予定する。
 - 「営農型太陽光発電の現状と課題（仮）」8月以降
 - 「クボタ農機グローバル技術研究所の見学会」未定

4.4 ソーラー建築部会（部会長：太田 勇）

- (1) ソーラー建築に特化したガイドブックを完成させ講座を立ち上げる。

4.5 風力・水力部会（部会長：吉田茂雄）

- (1)「太陽光発電設備・風力発電設備の雷被害とその対策」7月18日 於愛知工業大学本山キャンパス（太陽光発電部会と共催）
- (2) 風力関連の講演会・見学会を秋頃に企画する。

4.6 100%再生可能エネルギー部会

(部会長：秋澤 淳)

- (1) 第7次エネルギー基本計画を受け長期エネルギーシナリオをテーマとするセミナーを上期に企画する。
- (2) 10月25日に開催される日本機械学会「新☆エネルギーコンテスト」へ協賛団体として協力する。
- (3) 50周年記念行事に合わせたシンポジウムを企画する(2025年11月3日予定)。
- (4) 再生可能エネルギー利用を実装したZEBやその他施設の見学会を12月～1月頃に予定する。
- (5) 100%再生可能エネルギー化に関する勉強会(年2～3回程度の開催)を予定する。

4.7 地域脱炭素部会 (部会長：伊高健治)

- (1) 100% RE 部会と共同で50周年記念行事に合わせたシンポジウムを企画する(2025年11月3日予定)
- (2) 再生可能エネルギー利用を実装したZEBやその他施設の見学会を12月～1月頃に予定する。
- (3) ソーラーシェアリング(営農型太陽光発電)・省エネルギー等に関する勉強会を年2～3回開催する。

5. 関西支部の行事 (支部長：伊藤省吾)

見学会、シンポジウム等を開催し関西地区会員の啓発活動を行う。

- (1) 見学会(9月実施予定)
- (2) ペロブスカイト太陽電池に関するシンポジウム

を12月10日大阪公立大学にて開催する。

- (3) 第5回研究室探訪(9月頃の実施予定)
- (4) 幹事会3回/年を実施する。

6. 会員増加と財務基盤強化

- (1) 会員増加を目的として、団体会員の区分け・会費見直しを実施したが、会員の退会数が入会数を上回っており十分な成果が得られていない。団体会員にとってのメリットを良く検討し新規入会を促す。
- (2) 会員の高齢化による個人会員の退会者が増加している。学生会員の個人会員への移行と個人会員継続を図る。
- (3) 学生会員は会費を無料にしたことにより学生会員数および研究発表会の発表件数は増加している。さらに若手研究発表会等を通して研究発表会での発表件数増を図る。
- (4) 論文投稿数は増加傾向にあるので、さらに研究発表会での発表を論文投稿につなげていくよう座長の論文投稿推薦意見を活用し投稿を促す。
- (5) これらの施策に加えて各種委員会・各種部会の事業を通して個人会員、団体会員の増加を図る他、講演会やセミナー等の事業を強化する。
- (6) 学会誌郵送希望者の会費改定による収入増を図るとともに、学会誌の電子版化を進め環境への配慮を示す。
- (7) 上記施策を実施することにより経営の安定化、ならびに財務基盤の強化を図る。

2025 年度（令和 7 年度）収支予算計画

自：2025 年 4 月 1 日 至：2026 年 3 月 31 日

一般会計

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算
前年度繰越金	10,795,841
会費	10,923,732
学会誌	1,907,600
研究発表会	3,301,000
各種事業・講演会	3,245,000
雑収入	510,000
当年度収入計	19,887,332
合 計	30,683,173

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算
会議費	250,000
学会誌	4,054,946
賛助会費	123,500
研究発表会	1,831,526
各種事業・講演会	4,766,000
維持経費	13,660,267
人件費	7,000,000
事業税等	70,000
税理事務所報酬	528,000
当期支出計	32,284,239
次年度繰越金	▲ 1,601,066
合 計	30,683,173
正味財産増減額	▲ 9,756,907

谷辰夫基金創設，ソーラー建築部会の冊子（資産）を含めて収支は±0 で計画

特別会計

1. 出版事業

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算
前年度繰越金	0
書籍売上	0
合計	260,124

支出の部

(単位：円)

科 目	予 算
販売経費	0
期首棚卸資産	0
期末棚卸資産	2,640,000
合計	△ 2,640,000
次年度繰越金	2,640,000

ソーラー建築部会出版物 2,640,000 円を棚卸資産に計上

(第 3 号議案) 学会誌郵送希望者 会費改定の件

1. 学会誌郵送希望者の会費改定の件

先にお知らせのとおり学会誌郵送希望者の年会費を以下のように改定する。

会員種別	年会費（現行）	年会費（改定後）
個人会員	12,000 円	15,000 円
シニア会員	6,000 円	9,000 円

* 1. 団体会員の会費変更はありません。

* 2. 学生会員は電子版の配布のみですので年会費は無料です。